

令和7年度

北近畿豊岡自動車道
豊岡道路・豊岡道路（II期）
事後監視調査結果報告

令和7年11月5日（水）
兵庫県環境影響評価審査会

国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所

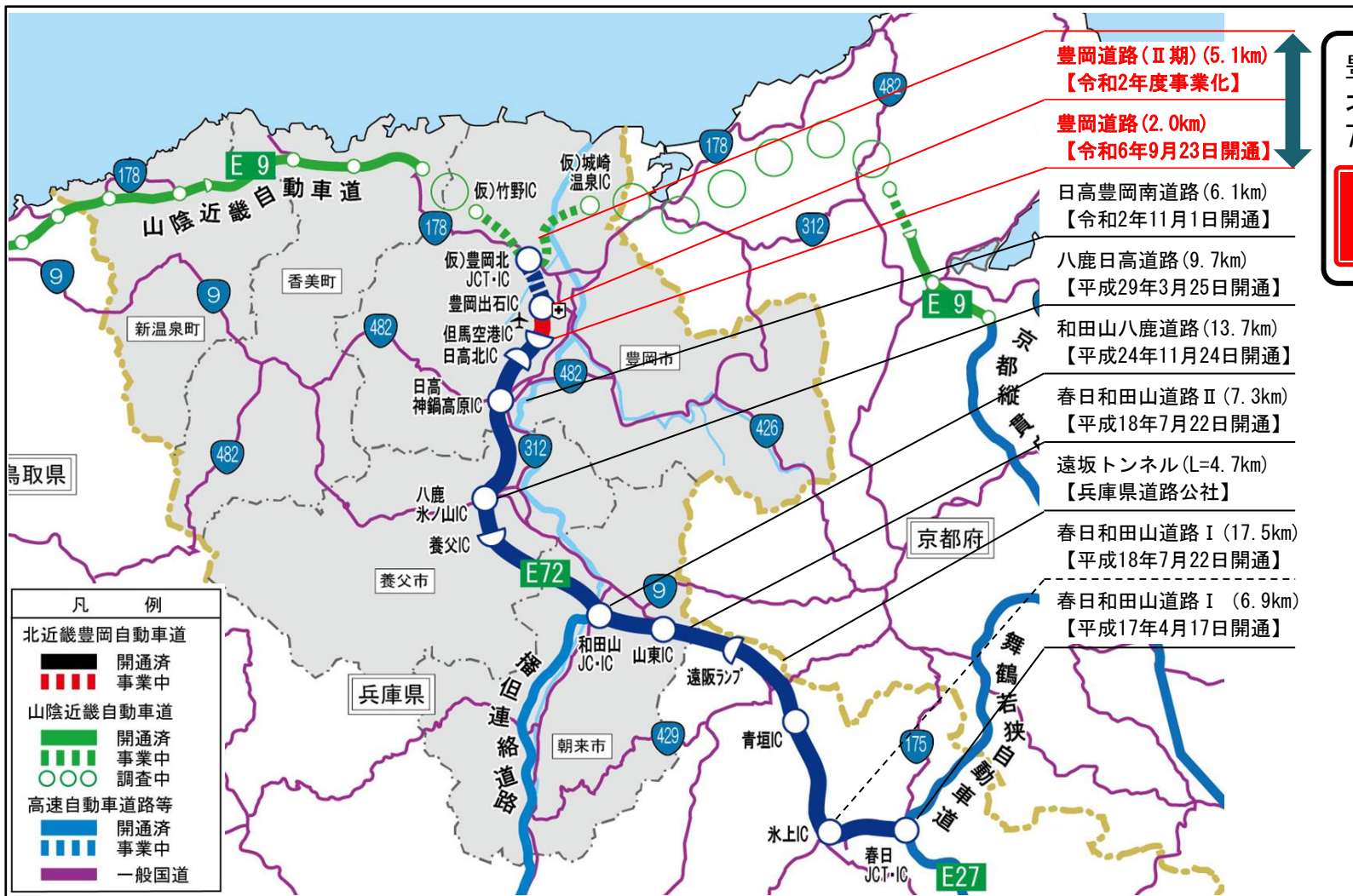
目次

1. 北近畿豊岡自動車道の概要
2. 豊岡道路に係る事後監視調査
 - 2.1 事後監視調査の概要
 - 2.2 事後監視調査結果について
3. 豊岡道路（Ⅱ期）に係る事後監視調査
 - 3.1 事後監視調査の概要
 - 3.2 事後監視調査結果について

1. 北近畿豊岡自動車道の概要

北近畿豊岡自動車道の概要

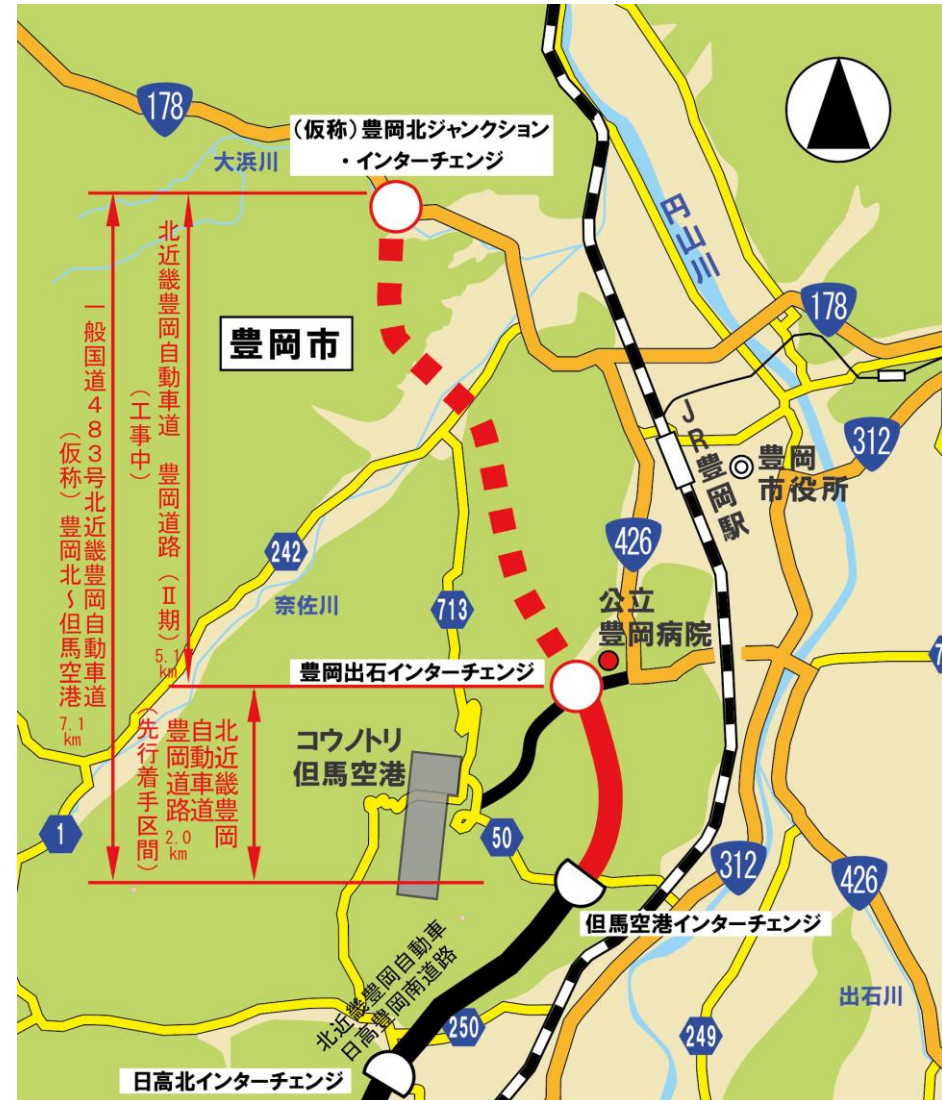
- ◆ 一般国道483号北近畿豊岡自動車道は豊岡市を起点とし丹波市に至る延長約73kmの高規格幹線道路
- ◆ 兵庫県北部の但馬地域と丹波地域の連携を支援するとともに、舞鶴若狭自動車道等を通じ京阪神都市圏と直結することで、地域の活性化を支援する自動車専用道路



環境影響評価対象区間 / 本報告の対象範囲

北近畿豊岡自動車道（豊岡道路・豊岡道路(Ⅱ期)）の概要

事業の名称	豊岡都市計画道路1.4.3号北近畿豊岡自動車道北線 （北近畿豊岡自動車道 豊岡道路 / 豊岡道路(Ⅱ期)）
事業者	国土交通省 近畿地方整備局
事業区域	兵庫県豊岡市新堂～上佐野 ※(仮称)豊岡北JCT・IC ～但馬空港IC
事業の種類	4車線以上の自動車専用道路の新設（条例施行規則）
事業規模	延長7.1km
車線数	4車線
設計速度	80km/時



北近畿豊岡自動車道(豊岡道路・豊岡道路(Ⅱ期))の整備効果

①広域ネットワークの形成

効果

舞鶴若狭自動車道、京都縦貫自動車道や山陰近畿自動車道と連携した広域ネットワークの形成により、地域連携の強化による地域活性化に寄与するとともに、リダンダンシー機能(代替機能)を発揮

②混雑の緩和

効果

北近畿豊岡自動車道(豊岡道路・豊岡道路(Ⅱ期))の整備により、一般道路の通過交通等が転換し、交通環境が改善

③地域産業・観光の活性化

効果

京阪神地域との広域ネットワークが形成され、移動時間の短縮により、地域産業・観光の活性化を支援

④災害等緊急時の代替路の確保

効果

災害時における市街地の孤立化が解消され、物資輸送や緊急搬送のための代替道路として機能

⑤救急医療機関へのアクセス向上

効果

地域住民の生命を守る「命の道」として、30分到達エリアの拡大により、第3次医療機関へのアクセスが強化

環境影響評価の概要

準備書の縦覧

平成26年8月25日～平成26年9月24日

評価書

環境影響評価書(豊岡都市計画道路 1.4.3号 北近畿豊岡自動車道北線) 平成27年5月 近畿地方整備局

都市計画決定

平成27年6月23日

評価書縦覧

平成27年6月23日～平成27年7月7日

事業化

① 平成28年度 豊岡道路(豊岡出石IC～但馬空港IC)事業化

② 令和2年度 豊岡道路(Ⅱ期)((仮称)豊岡北JCT・IC～豊岡出石IC)事業化

事後監視調査

条例及び評価書に基づき、事業実施区域周辺において、地域における生活環境、自然環境、その他、地域の環境の状況を把握することを目的として、大気質、水質、騒音、動物・植物に関する事後監視調査を実施する

2. 豊岡道路に係る事後監視調査

2.1 事後監視調査の概要

事後監視調査の実施状況

◆事後監視調査（豊岡出石IC～但馬空港IC間）

工事前：H28.11～H30.8

工事中：H30.8～

◆事後監視調査結果報告書

(H30年度) : R元年度

(R元年度) : R2年度

(R2年度) : R3年度

(R3年度) : R4年度

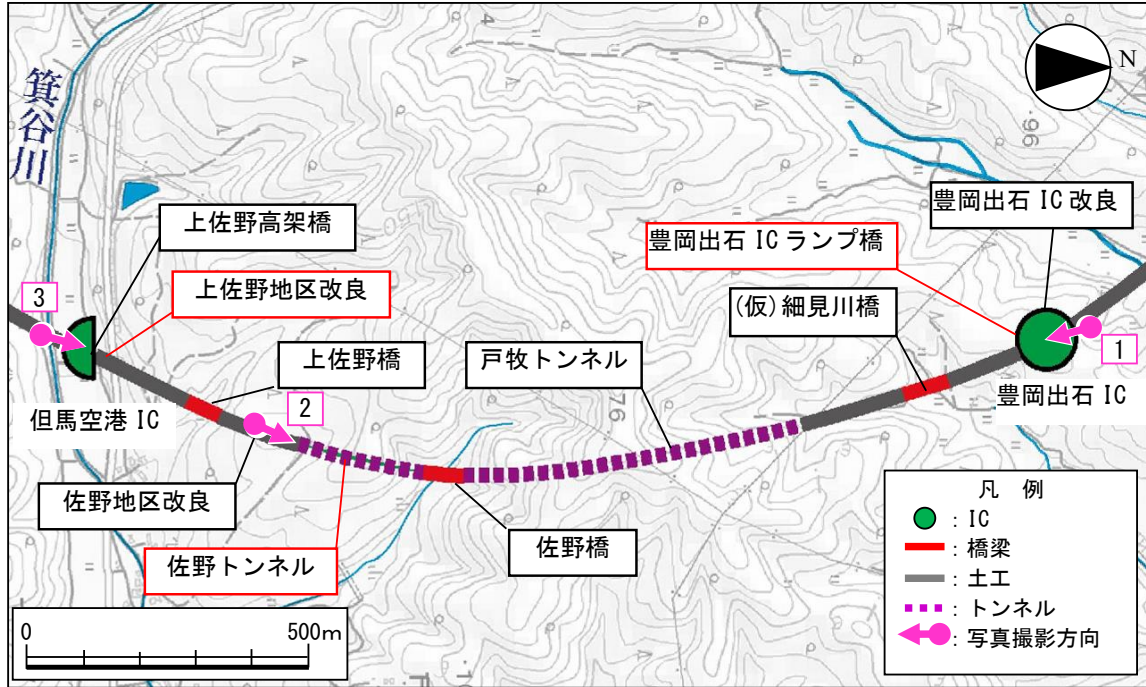
(R4年度) : R5年度

(R5年度) : R6年度

(R6年度) : R7年度

本審査会において、令和6年度調査結果を報告する

工事の実施状況（令和6年度）



R6. 9. 23開通



1 豊岡出石ICランプ橋 (R6. 7)



2 佐野トンネル (R6. 7)



3 上佐野地区改良 (R6. 7)

地区	工区	工種			令和（年度）						
		橋梁	切土	トンネル	1	2	3	4	5	6	
上佐野	上佐野高架橋	○									
上佐野・佐野	上佐野地区改良		○								
	上佐野橋	○									
	佐野トンネル			○							
佐野	佐野地区改良		○								
	佐野橋	○									
佐野・戸牧	戸牧トンネル			○							
戸牧	(仮)細見川橋	○									
	豊岡出石ICランプ橋	○									
	豊岡出石IC改良		○								
全地区	舗装工	○	○	○							

事後監視調査項目

調査項目				調査地点	工事前	工事中	供用後	
① 環境の保全と創造のための措置	大気汚染	工事用車両の運行に係る粉じんの発生状況	保全措置の実施状況の確認	工事用車両のタイヤ洗浄 工事用車両の分散化	上佐野	保全措置実施時		
			保全効果の確認	粉じんの濃度	上佐野	保全措置実施時		
		騒音	建設機械の稼働に係る騒音の発生状況	保全措置の実施状況の確認	防音シート	上佐野	工事用車両数の多い1季	
				保全効果の確認	騒音レベル	上佐野	工事の最盛期:橋梁-鋼橋架設作業時	
	植物	タニヘゴ・ハンゲショウの生育状況 ^{注1}	保全措置の実施状況の確認	移植	移植の対象とした生育地及びその周辺	移植時	移植後	
			保全効果の確認	生育状況の確認	生育地及びその周辺	移植前	移植後	
		侵略的外来種7種の生育状況	保全措置の実施状況の確認	焼却処分等	生育地及びその周辺	夏季	保全措置実施時	
			保全効果の確認	生育状況の確認	生育地及びその周辺	夏季	夏季	
	動物	ミサゴ、ハチクマ、サンバの繁殖状況 ^{注2}	保全措置の実施状況及び保全効果の確認	繁殖状況の確認	営巣地周辺	渡来及び育雛期	渡来及び育雛期	渡来及び育雛期
	② 事業の進捗に伴って影響監視が必要	水質汚濁	工事中の水の濁り	流量	公共用水域及び排水口		工事の最盛期	
SS						工事の最盛期		
騒音		工事用車両の運行に係る騒音	騒音レベル	上佐野		工事用車両数の多い時期		
		供用後の騒音	騒音レベル	上佐野			供用開始後1年目	
植物		変更区域周辺の貴重な種の生育状況	生育状況の確認	変更区域100m以内	春、夏、秋季		春、夏、秋季	
動物		変更区域周辺の貴重な種の生息状況(移動能力の小さい両生類・は虫類・昆虫類・クモ類 ^{注3} 、陸産貝類、および工事中の濁水の流入の影響を受ける可能性が考えられる魚類・底生動物)	生息状況の確認	変更区域250m以内	両生・は虫類:春、夏、秋、早春季 昆虫・クモ類:春、夏、秋 陸産貝類:夏季 魚類:夏季 底生生物:夏季	両生・は虫類:春、夏、秋、早春季 昆虫・クモ類:春、夏、秋 陸産貝類:夏季 魚類:夏季 底生生物:夏季	両生・は虫類:春、夏、秋、早春季 昆虫・クモ類:春、夏、秋、 陸産貝類:夏季 魚類:夏季 底生生物:夏季	

注1) 豊岡道路周辺では、ハンゲショウの生育は確認されていないため対象外

注2) 豊岡道路周辺では、ミサゴの営巣は確認されていないため対象外

注3) クモ類については、環境影響評価書では「変更区域周辺の貴重な種の生息状況」に記載されていないが、変更区域周辺で確認されており、事業による影響の可能性があるので追加した

 : 報告事項
 : 報告済
 : 報告対象外 (4車線化時に実施する調査項目)

2.2 事後監視調査結果について

①環境の保全と創造のための措置

環境の保全と創造のための措置—動物(1/4)

ハチクマ、サシバの繁殖状況

- 環境影響評価時に、豊岡道路周辺で営巣が確認されたハチクマ及びサシバについて、繁殖状況の確認調査を実施した。
- コウノトリ及びその他の猛禽類（トビを除くタカ目とハヤブサ目）が確認された場合にも記録を行った。

調査項目	調査時期	
ハチクマ、サシバの繁殖状況	工事中	令和6年度：令和6年4月22日～24日、6月5日～8日、7月1日～2日、8月1日～2日

環境の保全と創造のための措置－動物(2/4)

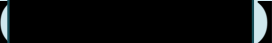
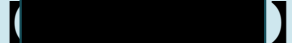
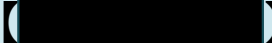
➤ 令和6年度は2科5種の猛禽類が確認された。

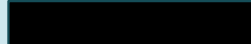

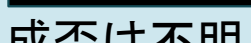
目名	科名	種名	渡り 区分	確認状況								
				環境影響 評価時※	工事前		工事中					
					H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	留鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	
タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥	○	○	○		○	○		○	○
		ハチクマ	夏鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		オオタカ	留鳥	○	○	○	○					
		ツミ	留鳥	○		○						
		ハイタカ	留鳥	○							○	
		ノスリ	留鳥	○	○		○		○			○
		サシバ	夏鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		クマタカ	留鳥	○				○				
		ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	冬鳥							
ハヤブサ	留鳥			○		○				○		
合計				5～9種	6種	7種	5種	5種	5種	4種	6種	4種

※環境影響評価時の調査（H17～H21、H25）のうち、4月～8月の間に、豊岡出石IC～但馬空港IC区間の改変区域周辺で確認された種を示している

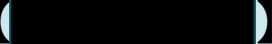
環境の保全と創造のための措置—動物(3/4)

■サシバ

【】 【】 【】

- ・においては営巣木及び巣内雛を確認、繁殖成功の可能性が高い。
- ・では、繁殖に関わる行動が確認されたものの営巣地は特定されず、繁殖の成否は不明。
- ・では、飛翔や止まりが確認されたが繁殖に関わる行動は確認されず、繁殖の成否は不明。

■ハチクマ

【】

繁殖の成否不明。



ハチクマ雄成鳥の餌運び



サシバ巣内雛



サシバ雄成鳥の止まり



飛翔するサシバ雌成鳥

環境の保全と創造のための措置－動物(4/4)

- 過去に繁殖が確認されたハチクマ、サシバの「繁殖成功」「繁殖成功の可能性が高い」地区数は、アセス時は0～3地区/年、工事前は0～2地区/年、工事中は1～2地区と、年によってばらつきがある（工事中に著しい地区数の減少は確認できない）。
- 本調査では工事騒音等に係る忌避行動は見られず、工事の影響は小さいものとする。
- 調査範囲において猛禽類の繁殖が確認されたが、工事箇所近傍に営巣木が確認されなかったこと、繁殖行動への著しい影響は見られなかったことから、「繁殖期の工事中断」や「新たな営巣場所の確保」等の措置は実施しなかった。

→工事の進捗状況及び繁殖状況に留意し、今後は供用後の調査を継続する。

種名	地区名	工事中						工事前経年の繁殖成否		環境影響評価時					
		R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H25	H21	H20	H19	H18	H17
ハチクマ		△	△	◎	○	△	△	△	△		◎	△	—	—	—
	◎、○の数	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
サシバ		—	—	—	×	×	×		△	—	—	△	△	◎	△
		○	◎	◎	×	○	×	△	△	◎	—	△	△	◎	—
		△	△	△	×	×	◎	×	○	—	—	—	—	—	—
		△	—	△	—	×	×	×	—	◎	—	—	—	—	—
		—	—	—	—				—	—	△	△	◎	◎	—
	◎、○の数	1	1	1	0	1	1	0	1	2	1	0	1	3	0
合計	◎、○の数	1	1	2	1	1	1	0	2	2	1	0	1	3	0

注) ◎：繁殖成功、○：繁殖成功の可能性が高い、△：繁殖成否不明、×：繁殖失敗の可能性が高い、
—：繁殖の可能性のある個体の確認はない、空白：確認なし

②事業の進捗に伴い、影響監視が
必要と考えられるもの

工事中の水の濁り（SS・流量）

- 事業実施区域内において、河川の水質及び水象の状況を把握することを目的として、調査を実施した。
- 調査地点は、土工（盛土、切土）部と交差する公共用水域及び排水口地点とし、工事による影響のおそれのある河川（細見川）における2地点とした。

調査項目		調査時期	調査方法
工事中の水の濁り (水質・流量調査)	SS (浮遊物質質量)	工事中 (工事の最盛期)	「浮遊物質質量（SS）の測定方法」による（昭和46年12月28日環境庁告示第59号付表7）
	流量	※令和6年度は毎月調査を実施	「流量測定方法」による（昭和46年9月30日環水管30号）

事業の進捗に伴い、影響監視が必要と考えられるもの—水質 (2/2)

- SS（浮遊物質）
 - ：公共用水域（下流）で、4月～11月に環境保全目標を上回った。細見川での濁水の発生を踏まえ、令和5年5月頃より、保全対策（沈砂池の新設、フィルターの新設置等）を順次実施。今後も必要に応じて、追加の保全対策の実施を検討する。
- 流量
 - ：公共用水域（下流）地点で0.002～0.062m³/s、排水口地点で0.001～0.013m³/s。
 - 概ねの工事が完了したことから、令和7年度は、工事用道路の撤去時のみ細見川において観測を実施予定

番号	地区名	項目	4/24	5/22	6/11	7/23	8/6	9/5	10/11	11/21	12/10	1/15	2/13	3/11
1-1	公共用水域 (下流)	浮遊物質 (mg/L)	44	40	130	28	29	53	54	50	10	13	9	8
		流量 (m ³ /s)	0.021	0.010	0.006	0.011	0.007	0.002	0.002	0.008	0.008	0.043	0.062	0.026
1-2	排水口	浮遊物質 (mg/L)	37	3	49	4	4	2	3	2	1	5	2	1
		流量 (m ³ /s)	0.010	0.006	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002	0.013	0.011	0.004

※水質の調査結果において、赤枠で囲った部分は環境保全目標として事後調査計画段階で設定した値（公共用水域：環境基準（25mg/L）、排水口：一律排水基準（200mg/L））を超過したことを示す。

※流量の調査結果は小数点以下第4位を四捨五入しているため、0.000は0ではない。

供用後の騒音 (騒音)

- 事業実施区域内において、騒音の状況を把握することを目的として、調査を実施した。
- 調査地点は、上佐野の1地点とした。

調査項目		調査地点	調査時期・日時	調査方法
供用後の騒音 (騒音調査)	騒音 レベル	上佐野	供用後 令和6年12月19日(木) 13時 ~12月20日(金) 13時	「騒音に係る環境基準について」(平成10年9月30日環 告64)で定められた方法

事業の進捗に伴い、影響監視が必要と考えられるもの—騒音 (2/2)

- 昼間65dB、夜間55dBとなり、昼間、夜間ともに環境基準を下回った。
- アセスの予測結果と比較すると、夜間の調査結果が予測結果よりも2dB大きい。
- アセス時に想定していた交通網や道路構造の違いや、調査結果が環境基準を下回っていることを踏まえ、今後、完成形での整備時に改めて調査を実施予定

調査地点	区分	調査・予測結果 (L_{Aeq})		環境基準 (L_{Aeq})		適否 ○：環境基準以下 ×：環境基準超過	
		昼間	夜間	昼間	夜間	昼間	夜間
上佐野	事後監視調査	65	55	70	65	○	○
	アセス時予測結果	67	52			○	○

《豊岡道路に係る事後監視調査》

環境影響評価書に記載の
事後監視調査計画に基づき、
事後監視調査を継続する。

3. 豊岡道路(Ⅱ期)に係る 事後監視調査

3.1 事後監視調査の概要

事後監視調査の実施状況

◆事後監視調査

((仮)豊岡北JCT・IC～豊岡出石IC間)

工事前：R3.5～R5.12

工事中：H30.8～

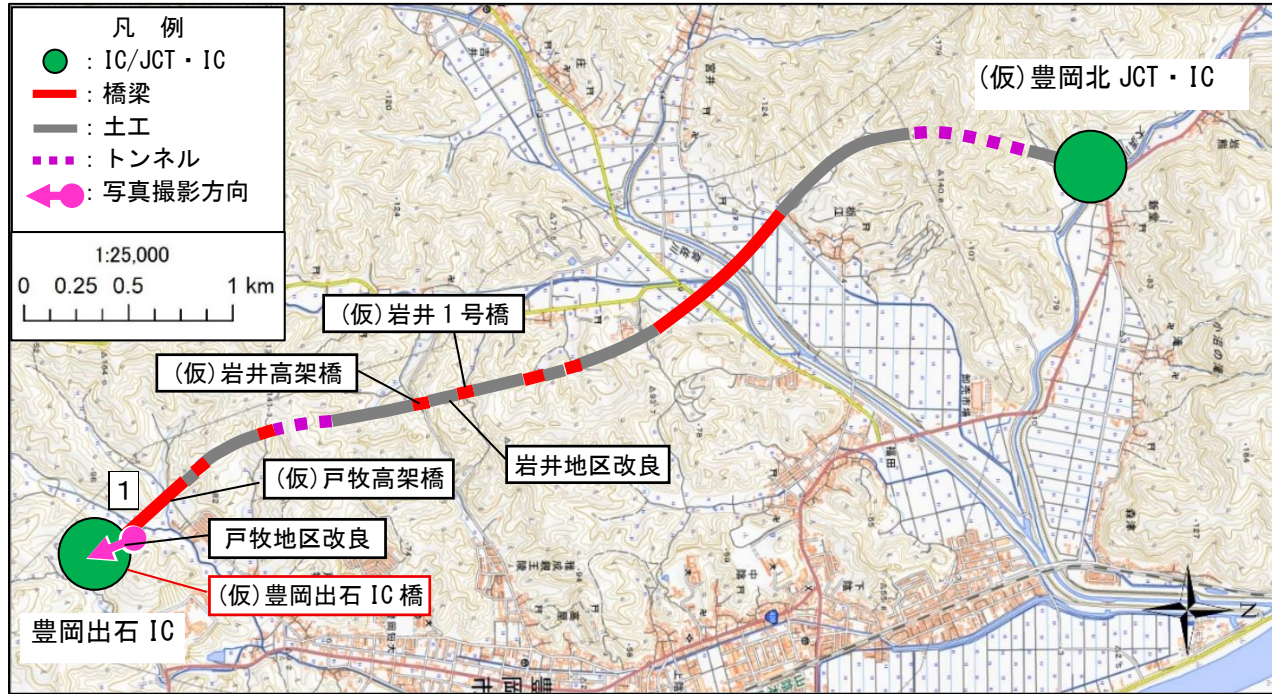
◆事後監視調査結果報告書

(R5年度)：R6年度

(R6年度)：R7年度

本審査会において、令和6年度調査結果を報告する

工事の実施状況（令和6年度）



(仮)豊岡出石IC橋(R6.7)

地区	工区	工種			令和（年度）		
		橋梁	切土	トンネル	5	6	7
戸牧	(仮)豊岡出石IC橋	○				■	■
	戸牧地区改良						■
	(仮)戸牧高架橋						■
奥岩井地区	(仮)岩井高架橋						■
岩井地区	岩井地区改良						■
	(仮)岩井1号橋						■

事後監視調査項目

		調査項目	調査地点	調査方法	工事前	工事中	供用後		
a 環境の保全と創造のための措置（保全措置の実施状況と保全効果の確認）	大気汚染	工事用車両の運行に係る粉じんの発生状況	工事用車両のタイヤ洗浄 工事用車両の分散化	口岩井	目視・写真撮影による確認		保全措置実施時 1回		
					目視・写真撮影、又は工事計画による確認		保全措置実施時 1回		
		保全効果の確認	粉じんの濃度		ダストジャー又はデポジットゲージ		工事用車両数の多い1季 1回		
			風向・風速		「地上気象観測指針」に基づく方法		工事用車両数の多い1季 1回		
	植物	タニヘゴ・ハンゲショウの生育状況	保全措置の実施状況の確認	移植	移植の対象とした生育地及びその周辺	目視・写真撮影による確認	移植時 1回		
			保全効果の確認	生育状況の確認	生育状況調査	生育状況調査	移植前 1回	移植後 3回/年 3年間目安	
	侵略的外来種7種の生育状況	保全措置の実施状況の確認	焼却処分等	生育地及びその周辺	目視・写真撮影による確認		保全措置実施時 適時		
		保全効果の確認	生育状況の確認		生育状況調査	夏季 1回	夏季 1回		
	動物	コウノトリ及び猛禽類の生息状況	保全措置の実施状況の確認	誘導構造物設置の確認	生息地周辺（保全措置実施箇所）	目視・写真撮影による確認		保全措置実施時 1回	
			保全効果の確認	生息状況の確認		生息状況調査	5月、9～10月、12月、3月 各月1回1年間	5月、9～10月、12月、3月 各月1回1年間	
		ミサゴ、ハチクマ、サンバの繁殖状況 ^{注1}	保全措置の実施状況及び保全効果の確認	繁殖状況の確認	営業地周辺	定点観察調査	渡来及び育雛期 1年間（1繁殖期）	渡来及び育雛期 毎年（毎繁殖期）	渡来及び育雛期 3年（3繁殖期）
			保全措置の実施状況の確認	照明機器へのルーバー設置等の確認	生息地周辺（保全措置実施箇所）	目視・写真撮影による確認		保全措置実施時 1回	
ヒメボタルの生息状況	保全効果の確認	生息状況の確認	生息状況調査	5月～6月 1回		5月～6月 1回			
	b 事業の進捗に伴い、影響監視が必要と考えられるもの	水質汚濁	工事中の水の濁り	流量	公共用水域及び排水口	「水質調査方法」の「流量測定方法」に基づく方法		工事の最盛期 月1回（1年間）	
SS				「水質汚濁に係る環境基準について」の「浮遊物質（SS）の測定方法」に基づく方法			工事の最盛期 月1回（1年間）		
騒音		工事用車両の運行に係る騒音	騒音レベル	口岩井、栃江西、新堂	「騒音に係る環境基準について」で定められた方法		工事用車両数の多い時期 1回		
		供用後の騒音	騒音レベル	戸牧、栃江西、新堂	「騒音に係る環境基準について」で定められた方法		供用開始後1年目安 1回		
植物		変更区域周辺の貴重な種の生育状況	生育状況の確認	変更区域 100m以内	生育状況調査	春、夏、秋季 各1回	春、夏、秋季 各1回		
動物		変更区域周辺の貴重な種の生息状況（移動能力の小さい両生類・は虫類・昆虫類・クモ類 ^{注2} ・陸産貝類、および工事中の濁水の流入の影響を受ける可能性があると考えられる魚類・底生動物）	生息状況の確認	変更区域 250m以内	生息状況調査	両生・は虫類：春、夏、秋、早春季 各1回 昆虫・クモ類：春、夏、秋季 各1回 陸産貝類：夏季 各1回 魚類：夏季 各1回 底生生物：夏季、早春季 各1回	両生・は虫類：春、夏、秋、早春季 各1回 昆虫・クモ類：春、夏、秋季 各1回 陸産貝類：夏季 各1回 魚類：夏季 各1回 底生生物：夏季、早春季 各1回	両生・は虫類：春、夏、秋、早春季 各1回 昆虫・クモ類：春、夏、秋季 各1回 陸産貝類：夏季 各1回 魚類：夏季 各1回 底生生物：夏季、早春季 各1回	

注1) 豊岡道路（Ⅱ期）周辺では、ハチクマの営業は確認されていないため対象外

注2) クモ類については、環境影響評価書では「変更区域周辺の貴重な種の生息状況」に記載されていないが、変更区域周辺で確認されており、事業による影響の可能性があるので追加した

 : 報告事項
 : 報告済
 : 報告対象外

3.1 豊岡道路（Ⅱ期）に係る 事後監視調査結果について

①環境の保全と創造のための措置

環境の保全と創造のための措置－植物(1/1)

①ハンゲショウの生育状況

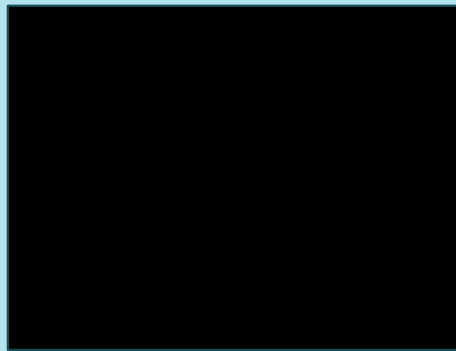
- 改変区域周辺に確認されたハンゲショウについて、移植後の保全効果の確認調査（生育状況調査）を実施した。
- 移植後の調査では、移植先において順調に生育している状況を確認した。
→引き続きモニタリング調査を実施予定。

調査項目		調査地点	移植時期	調査時期
ハンゲショウの 生息状況	保全効果の確認 (生育状況調査)	移植先	令和4年11月 令和5年3月	令和6年度： 令和6年5月13日、 8月22日、11月29日

■ 令和4年11月移植個体



【令和6年5月：遠景】

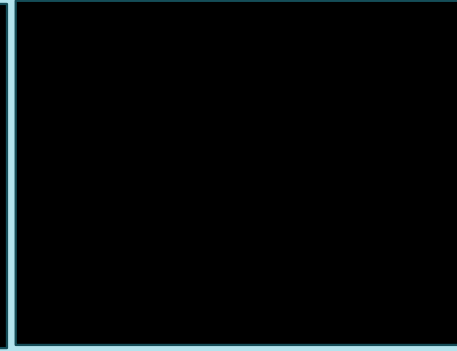


【令和6年8月：近景】

■ 令和5年3月移植個体



【令和6年5月：遠景】



【令和6年8月：近景】

環境の保全と創造のための措置—動物(1/4)

ミサゴ、サシバの繁殖状況

- 環境影響評価時に、豊岡道路（Ⅱ期）周辺で営巣が確認されたミサゴ及びサシバについて、繁殖状況の確認調査を実施した。
- コウノトリ及びその他の猛禽類（トビを除くタカ目とハヤブサ目）が確認された場合にも記録を行った。

調査項目	調査時期	
ミサゴ、サシバの繁殖状況	工事前 工事中	令和6年：令和6年3月25日～26日、4月22日～24日、 6月5日～8日、7月1日～2日

環境の保全と創造のための措置－動物(2/4)



➤ 令和6年は3科9種のコウノトリ・猛禽類が確認された。

目名	科名	種名	渡り区分	確認状況			
				環境影響評価時	工事前(令和4年)	工事前(令和5年)	工事前・中(令和6年)
コウノトリ目	コウノトリ科	コウノトリ	留鳥	○	○	○	○
タカ目	タカ科	ミサゴ	留鳥	○	○	○	○
		ハチクマ	夏鳥	○	○	○	○
		オジロワシ	冬鳥			○	
		オオタカ	留鳥	○	○	○	○
		ツミ	留鳥	○			
		ハイタカ	冬鳥	○	○	○	○
		ノスリ	冬鳥	○	○	○	○
		サシバ	夏鳥	○	○	○	○
		クマタカ	留鳥	○	○		○
		ハイイロチュウヒ	冬鳥	○			
		チュウヒ	冬鳥	○			
		ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥	○	○
チョウゲンボウ	冬鳥			○		○	
合計				9～13種	9種	9種	9種

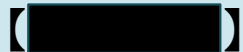
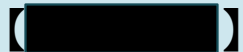
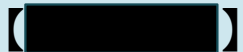
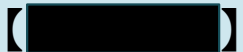
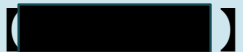
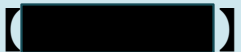
※環境影響評価時の調査（H17～H21、H25）のうち、3月～7月の間に、(仮)豊岡北JCT・IC～豊岡出石IC区間の改変区域周辺で確認された種を示している

環境の保全と創造のための措置—動物(3/4)

■サシバ

【】 【】

- ・ 高屋地区で営巣木及び巣内の成鳥、野垣地区で営巣木及び巣内雛を確認し、繁殖成功の可能性が高いと判断。

【】 【】 【】 【】 【】 【】

- ・ 繁殖行動等により推定営巣地は特定できたものの、巣内雛や幼鳥は確認されず、繁殖成否不明。

■ミサゴ

【】

- ・ 営巣木及び巣内雛を確認し、繁殖成功の可能性が高いと判断。

サシバ巣内雛

サシバ雌雄成鳥の交尾

飛翔するサシバ雄成鳥

ミサゴ雌雄成鳥と営巣木

環境の保全と創造のための措置－動物(4/4)

- 過去に繁殖が確認されたミサゴ、サシバの「繁殖成功」「繁殖成功の可能性が高い」地区数は、アセス時0~4地区/年、工事前(中)1~3地区/年と年によってばらつきがある。
- 調査範囲において猛禽類の繁殖が確認されたが、工事着手前であったこと、改変区域外に営巣木があったことから、「繁殖期の工事中断」や「新たな営巣場所の確保」等の措置は実施しなかった。

→工事の進捗状況及び繁殖状況に留意し、今後工事中（一部工事前）の調査を実施する。

種名	地区名	経年の繁殖成否 環境影響評価時								
		工事中 R6	工事前 R5	工事前 R4	H25	H21	H20	H19	H18	H17
ミサゴ		—	—	—	◎					
		○	×	◎	—	◎	◎	△	◎	
		—	—							
	◎、○の数	1	0	1	1	1	1	0	1	0
サシバ		△	△	△	—	—	—	—	—	—
		△	—	△	◎	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	△	△	◎	◎	—
		○	—	—						
		△	—	—						
		△	—	—						
		△	◎	△						
		○	△	△	◎					
		△	×	△	◎	◎				
	◎、○の数	2	1	0	3	1	0	1	1	0
合計	◎、○の数	3	1	1	4	2	1	1	2	0

注)
 ◎：繁殖成功
 ○：繁殖成功の可能性が高い
 △：繁殖成否不明
 ×：繁殖失敗の可能性が高い
 —：繁殖の可能性のある個体の確認はない
 空白：確認なし

《豊岡道路(Ⅱ期)に係る事後監視調査》

環境影響評価書に記載の
事後監視調査計画に基づき、
事後監視調査を継続する。